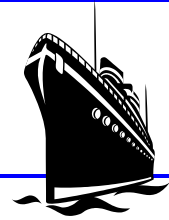


MSI Marine News

トピックス



●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

中国（上海）自由貿易試験区の開設について

中国政府は2013年9月29日に「中国（上海）自由貿易試験区」を開設、同年10月1日から法令施行されました。上海市郊外の4つの保税區（外高橋保税區、外高橋物流園區、洋山保税港區、浦東空港総合保税區）を基盤とした28平方キロメートルの区域内では、規制緩和の第一弾として金融や海運等の18業種が中国政府から指定され、米シティバンク、米マイクロソフト、独ポルシェ等、中国国内外の36社が進出しました。

1. 中国（上海）自由貿易試験区の全体像

同試験区は習近平体制への移行後経済改革を推し進める重要措置として中国政府にとって重要な位置付けとされており、同国の商務相は「世界の経済動向に合わせて対外開放を積極的に進めるため」とのコメントを発足式典にて表明しております。現状では様々な規制のある金融取引や貨幣流通について同試験区を通して自由化することや貿易・流通業務を円滑化することが当面の目標とされています。

2. 貿易・物流面の効果

(1) 中国における輸入手続きの簡素化と迅速化

貨物の輸入手続きが簡素化され、同試験区内の迅速な貨物輸送体制が整備されます。具体的には、現在貨物が税関を通過するまでに最大1ヵ月かかるため、企業は大量の「安全在庫」を抱えていることとなりますが、同試験区で煩雑な手続きが削減されれば、企業は在庫削減でコストを節約できるだけでなく、上海は小売市場における地域のフルフィルメントハブ（商品管理・ピッキング・配送等の拠点）として香港やシンガポール等と競争できるようになると考えられます。

上海市の計画に基づき、同試験区では9月末までに貿易の「1回の申請、1回の検査、1回の許可」を全国に先駆けてスタートさせました。

10月9日に貨物は先ず税関を通り、後から報告するシステムを実施し、貨物が同試験区に直接運び込まれることや、輸出入される貨物がペーパーレスで通過できる様にし、同試験区内の貨物の流れをスムーズにしました。貿易の利便化が積極的に推進されていることがこの動きから良く分かります。

(2) 世界の海運センターの実現とオフショア貿易の進展

上海はパナマ、シンガポール等の世界的な海運センターとの距離が未だあり「自由貿易試験区の開設は上海を国際航運の中心とする目標実現に非常に有利」と上海の海運関係者は語っています。また、外為管理の自由化が進展すればオフショアの貨物貿易とサービス貿易を展開しやすくなり、よりグローバルな範囲で貿易を行うことが可能となります。

3. 今後の見通し

同試験区の運用は2013年10月1日から向こう3年間とされ、規制緩和は順次進められることとなります。中国国内外の企業からの期待は大きく、また中国本土の投資家の間では試験区の開設によって投資やインフラ支出が増加するとの期待が高まっており、ここ数週間で不動産価格や試験区関連株が急騰しています。

一方で国内政治パワーと結びついた国有企業等の「既得権益層」の抵抗も予想されており、見通しは明るいものばかりではありません。

また、進出を果たした36企業に日系企業が含まれていないことから、今後の日系企業の同試験区における対応策も注目されます。

同試験区は貿易の利便性を増すだけでなく、貿易の実態・モデルの刷新やオフショア機能の刷新を実現し、連動して世界の海運サービス機能の刷新・バージョンアップを推進する可能性があります。